

令和6年度 鹿児島県小・中学校長研究大会開催要項

大会主題

「あしたを拓き、心豊かでたくましく生きる人間の育成を目指す学校教育の創造」

I 趣旨

今日、我が国においては、知識基盤社会の進展や国内外における競争の激化など社会が大きく変化していく中で、幸福な生涯を実現するため未来を主体的に切り拓き、生涯にわたって自己実現を目指す自立した人間の育成が求められている。また、国家や社会の形成者としての資質を備えた日本人を育成し、我が国が一層の発展を遂げ国際社会に貢献していく上でも、教育の果たすべき役割・使命は極めて大きいものがある。

学校教育においては、自分の夢や希望の実現に向けて意欲的に挑戦するたくましい子供を育成するとともに、社会の一員としての自覚と責任を育むことが責務である。そのためには、21世紀をたくましく生き抜く原動力となる確かな学力、豊かな心、健やかな体など「生きる力」を調和的に育成することが不可欠である。

義務教育は、「生きる力」の基盤づくりとして重要な役割を担っている。そのために、我々小・中学校長は、学校の最高責任者としての使命を自覚し、鋭い先見性と揺るぎない教育理念をもち、明確な学校経営ビジョンを確立する必要がある。また、学校経営の実際に当たっては、リーダーシップを十分に発揮して、創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善及びその公表等を行い、県民の期待と信託に応えることに全力を傾注しなければならない。

新学習指導要領への対応や学校現場における業務改善が求められる今日、本研究大会は、これまでの研究を基盤とし、県下の小・中学校長の総意を結集し、主題に迫る具体的な学校経営の在り方を校長の立場で究明して、本県学校教育の充実・発展を図ろうとするものである。

II 主催 鹿児島県連合校長協会

III 共催 鹿児島県教育委員会 鹿児島県市町村教育委員会連絡協議会

IV 後援 公益社団法人 日本教育会

V 期日 令和6年11月15日(金)

VI 会場 川商ホール第2ホール サンロイヤルホテル ホテルウェルビューかごしま

VII 日程等

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 受付(川商ホール第2ホール) | 8:30~9:00 |
| 2 日程説明 | 9:00~9:05 |
| 3 開会行事 | 9:05~10:00 |
| (1) 開式のことば | (6) 来賓紹介 |
| (2) 国歌斉唱 | (7) 祝電披露 |
| (3) 開会のあいさつ(中学校会長) | (8) 研究経過及び大会宣言案報告 |
| (4) 県教育長あいさつ | (9) 閉式のことば |
| (5) 祝辞(知事メッセージ) | |

〈 準備 〉 (15分)

4 講演 10:15~11:25

- ◇ 演題 「デジタル化時代と子どもたちの学び
—「内発を誘発するための外発」の実現のために—」
- ◇ 講師 合田 哲雄 氏 [文化庁 次長]

〈 移動・昼食・休憩 〉 (70分)

5 分科会(サンロイヤルホテル, ホテルウェルビューかごしま)

- | | |
|---------------------|-------------|
| (1) 分科会の説明 | 12:35~12:40 |
| (2) 分科会 I | 12:40~14:00 |
| ① 研究発表(20分) | |
| ② 質疑応答(10分) | |
| ③ 研究協議(グループ協議)(40分) | |
| ④ まとめ(10分) | |

〈 準備 〉 (15分)

- | | |
|---------------------|-------------|
| (3) 分科会 II | 14:15~15:35 |
| ① 研究発表(20分) | |
| ② 質疑応答(10分) | |
| ③ 研究協議(グループ協議)(40分) | |
| ④ まとめ(10分) | |
| (4) 指導助言(20分) | 15:35~15:55 |

6 閉会行事(各分科会場で 諸連絡を含む) 15:55~16:00

○ 小学校分科会場(4人一組グループ形式)

分科会	会場名	参加者数
小1	ホテルウェルビューかごしま(潮騒Ⅰ)	56名
小2	ホテルウェルビューかごしま(潮騒Ⅱ)	57名
小3	ホテルウェルビューかごしま(潮騒Ⅲ)	57名
小4	ホテルウェルビューかごしま(桜島)	58名
小5	サンロイヤルホテル(高隈)	58名
小6	サンロイヤルホテル(高千穂)	58名
小7	サンロイヤルホテル(エトワール)	57名
小8	サンロイヤルホテル(ハイビスカス・ブーゲンビリア)	55名

○ 中学校分科会場(4人一組グループ形式)

分科会	会場名	参加者数
中1	サンロイヤルホテル(マーガレット)	37名
中2	サンロイヤルホテル(嵐山)	35名
中3	サンロイヤルホテル(松・竹)	37名
中4	サンロイヤルホテル(梅・杉)	37名
中5	ホテルウェルビューかごしま(さざなみ)	37名

令和6年度 分科会の研究主題・協議題及び運営等

1 小学校部会

分科会	研究主題	趣 旨	協 議 題 (副題)	司 会 者	発 表 者	記 録 者	世 話 係	指 導 助 言 者	会 場 ・ 参 加 人 数	
第一分科会	学校経営	「生きる力」を育む活力ある学校づくりを旨とする校長の経営理念と方策	子どもたちに確かな学力や豊かな人間性、健康や体力などの「生きる力」を育ていくためには、それぞれの学校の歴史や伝統、地域性などを尊重しながらも、進取の気風や積極性にあふれた活力ある学校づくりを目指すことが重要である。そのためには、学校の現状分析から課題を把握し、ビジョンを明確にした学校運営が求められる。同時に、「学校評価ガイドライン」の趣旨を生かした学校評価を実施し、説明・結果責任を果たすとともに常に学校経営の改善を図っていくことが緊要である。ここでは、活力あふれる学校づくりを目指すための学校経営ビジョンの実現や、学校評価の在り方・生かし方等について究明する。	(1) 学校経営ビジョンの実現を目指した学校運営の推進 (2) 学校評価の在り方と評価を生かした学校経営の改善	牧之瀬 陽 一 (串木野小)	牧 健 一 (川上小)	徳 永 寛 隆 (生福小)	川 畑 昭 二 (田上小)	県教育庁 義務教育課 企画調査係 主任指導主事兼係長 前 保廣	ホテル ウェルビューかごしま (潮騒Ⅰ) 56名
					青 崎 幸 一 (峰山小)	新 田 賢 一 (平佐西小)	牧 本 佳代子 (永利小)	山 崎 和 正 (市来小)		
第二分科会	教育課程	地域のよさを生かし、「生きる力」を育む特色ある教育課程	一人一人の子どもの「生きる力」を育む教育課程の編成・実施に当たっては、子どもの実態及び心身の発達段階や特性を十分考慮するとともに、地域の自然や文化、伝統等に触れるなど、学校や地域のよさを生かした特色ある教育活動の展開を図る教育課程を編成・実施・評価することが重要である。ここでは、地域のよさを生かした特色ある教育課程と複式・小規模校の特性を生かした教育課程の両面から「生きる力」を育む教育課程の在り方を究明する。	(1) 地域のよさを生かした特色ある教育課程の編成・実施と評価 (2) 複式・小規模校の特性を生かした教育課程の編成・実施と評価	郷 原 光 徳 (宮小)	牧 住 幸 二 (本城小)	吉 松 公 一 (牟礼岡小)	竹 下 公 博 (荒田小)	県教育庁 義務教育課 企画調査係 指導主事 新名主洋一	ホテル ウェルビューかごしま (潮騒Ⅱ) 57名
					村 岡 和 志 (香月小)	川 邊 真 人 (田之浦小)	池ノ上 敬 一 (志布志小)	曾 山 志 保 (吉田小)		
第三分科会	現職教育	時代の要請に応え、使命感と指導力を高める現職教育	知識基盤社会やグローバル化が進出し、高度な危機管理・対応が必要となっていく現状において、教職員にはこれらに対応した様々な資質や能力とともに教育者としての強い職責感が求められている。この経営課題の解決を図る現職教育を推進する上で、研修体制の充実や人事評価制度の活用は緊要な課題である。ここでは、教育を担う使命感と専門職としての指導力を高めるとともに、教職員自らが主体的に自己の成長を図っていくための現職教育の具体的な方策を究明する。	(1) 使命感と専門職としての指導力を高める現職教育の研修体制の推進 (2) 主体的自己成長を図る教職員を育成する人事評価制度の推進	森 謙 次 (大口東小)	垣 内 秀 一 (大口小)	池 本 勝 志 (山野小)	林 耕 二 (東谷山小)	県教育庁 教職員課 小中学校人事管理係 主幹兼係長 原田 浩毅	ホテル ウェルビューかごしま (潮騒Ⅲ) 57名
					山 本 裕 三 (上場小)	中 島 伸 一 (米ノ津小)	大 原 暁 子 (米ノ津東小)	田 口 太 介 (菱刈小)		
第四分科会	学力向上	これからの社会を豊かに生きるための確かな学力の育成	変化の激しい社会を豊かに生きるために、子どもが自ら考え、判断し、解決するという基本的な考え方に立って「読み、書き、算」をはじめとする、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図ることは学校教育の中心的な課題である。ここでは、子どもの学力の実態を的確にとらえ、これまでの取組を見直して指導法の工夫・改善、学習意欲の向上や学習習慣の確立を通して確かな学力の育成を図るとともに、教科等横断的な学習を行う総合的な学習の時間の展開策について究明する。	(1) 確かな学力の育成を図る具体的方策の推進 (2) 教科等横断的な学習を行う総合的な学習の時間の推進	林 賢 介 (溝辺小)	白 田 実 (小浜小)	高 見 憲 次 (小野小)	宮 脇 一 郎 (松元小)	県教育庁 義務教育課 義務教育係 指導主事 山崎 晃	ホテル ウェルビューかごしま (桜島) 58名
					濱 元 弘 (青戸小)	上 床 研 三 (宮脇小)	吉 満 昭 代 (粟ヶ窪小)	下曾山 隆 (別府小)		
第五分科会	心の教育	望ましい人間関係や規範意識を育てる心の教育	いじめ・不登校、非行などの状況は複雑多様化しており、思いやりの心の欠如、社会性や規範意識の低下など憂慮すべき教育上の問題が生じている。そのため、全教育活動を通して、子ども一人一人に自己存在感・自己有用感をもたせるとともに、望ましい社会性や規範意識を身に付けさせ、思いやりや正義感等豊かな心を育てていくことが重要である。ここでは、個の自律を促し、お互いを尊重し、共に認め合う望ましい人間関係を育てる生徒指導の在り方や体験活動を通じた豊かな心の育成、家庭や地域社会との連携を密にした道徳教育の更なる充実のための方策を究明する。	(1) 社会性や規範意識を育成する生徒指導の推進 (2) 豊かな体験活動及び家庭や地域社会との連携を重視した道徳教育の推進	水 本 賢 一 (高隈小)	赤 井 清 人 (上小原小)	向 吉 晴 美 (大黒小)	本 山 桂 三 (川上小)	県教育庁 高校教育課 学校教育生徒指導班 指導主事 福元 浩子	サンロイヤル ホテル (高隈) 58名
					横 山 政 文 (現和小)	畑 真 一 (上西小)	神 田 圭 (下西小)	才 川 文 秋 (榕城小)		
第六分科会	健康・安全教育	健やかで、たくましく生きる力を育む健康・安全教育	社会環境や生活環境の急激な変化によって、学校保健、食育・学校給食、学校安全には様々な課題が生じている。学校における安全・安心な環境が確保され、子どもたちが心身ともに健やかに成長していくためには、健康・安全教育の確かな指導体制を築くことが極めて重要であり、社会の変化に対応した新しい取組が求められている。ここでは、家庭や地域との連携を深めながら、子ども一人一人が主体的に体力・健康づくりに取り組み、生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う健康・安全教育の在り方を究明する。	(1) 自ら進んで心身を鍛え、たくましい心と体を育てる健康教育の推進 (2) 自ら危険を予知し、安全に行動する能力や態度を育てる安全教育の推進	有 村 暢 高 (皇徳寺小)	福 留 健 之 (星峯東小)	永 里 智 広 (星峯西小)	常 深 章 (吉野小)	県教育庁 保健体育課 健康教育係 主任指導主事兼係長 栗山 稔久	サンロイヤル ホテル (高千穂) 58名
					池 田 昌 弘 (亀津小)	越 間 むつみ (亀徳小)	山 本 克 久 (母間小)	和 田 哲 也 (山小)		
第七分科会	人権教育 特別支援教育	人間尊重の精神に基づき、共に生きる子どもを育てる人権教育及び特別支援教育	人間尊重の精神に基づく心豊かな社会を実現するために、基本的な人権を尊重し、公平・公正な態度で共に生きる力を育てる人権教育の充実、学校教育が解決すべき重要な課題である。ここでは、偏見や差別をなくしていく意欲と実践力を育てる人権教育の在り方を究明する。 特別な支援が必要な子どもの立場に立って、教育的ニーズを把握し、必要な支援を行い、一人一人の能力を最大限に伸ばすとともに、自立や社会参加のための基盤を培うことが求められている。ここでは、特別な支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の在り方を究明する。	(1) 自他を大切にすることや実践力を育てる人権教育の推進 (2) 子どもの教育的ニーズに応え、一人一人が生き生きと輝く特別支援教育の推進	柳 野 竜 生 (山崎小)	石 川 雅 仁 (柏原小)	渡 邊 義 幸 (佐志小)	富 田 純 一 (西陵小)	県教育庁 特別支援教育課 小中高等学校係 主任指導主事兼係長 前田 博美	サンロイヤル ホテル (エトワール) 57名
					野 元 忠 久 (小山田小)	榊 まゆみ (武岡台小)	山 下 佳 子 (花野小)	原 田 弥 生 (犬迫小)		
第八分科会	国際理解教育 キャリア教育	広い視野で考え、よりよい社会を協働して形成していく実践力を高める国際理解教育環境教育キャリア教育情報教育	グローバル社会の進展に対応し、自己実現を図る人間を育成するためには、子どもたちに自他の文化を理解したり、地球規模での環境問題を考えさせていくことが必要である。そうする中で、共に生きていく態度や必要な国際感覚を身に付けさせることが重要である。ここでは、異文化に触れたり、喫緊の環境問題を考えていく中で、すべての人々とよりよく生きる態度を育成する国際理解教育や環境教育の在り方を究明する。 情報技術の急激な進展に対応し、子どもたちが情報を主体的に活用しながら他者と協働し、新たな価値を創造するなど情報活用能力を育成することが重要である。また、少子高齢化の進行とともに人間関係の希薄化が指摘される中、周囲の人々と協力することの大切さやよりよい社会を協働して形成しようとする態度を育む必要がある。ここでは、カリキュラム・マネジメントにより子どもたちの情報活用能力をはじめ、プログラミング的思考、情報モラル等コミュニケーション能力等、生きる力の基礎を積極的に身に付けさせる情報教育やキャリア教育の在り方を究明する。	(1) 人間・自然理解を基調とし、異文化に触れたり、環境問題などに対する興味・関心を高め、必要な資質・能力を高めたりする国際理解教育や環境教育の推進 (2) 情報活用能力をはじめ、プログラミング的思考、情報モラル等を育む情報教育の推進 自立や協働の心をもつキャリア教育の推進	西 武 久 (松ヶ崎小)	有 村 重 輝 (新城小)	竹 井 敏 秀 (柘原小)	橋 元 忠 史 (附属小)	県教育庁 高校教育課 学校教育ICT推進班 指導主事 時任 志郎	サンロイヤル ホテル (ハイビスカス・ブーゲンビリア) 55名
					小 山 俊 明 (小湊小)	喜 島 宏 明 (加世田小)	宮ノ前 香 織 (川畑小)	船 迫 光 一 (水之上小)		

2 中学校部会

分科会	研究主題	趣 旨	協 議 題	司会者	発表者	記録者	世話係	指導助言者	会場・参加人数
第一分科会	教育課程・評価の工夫 「生きる力」を育成する教育課程の編成・実施・評価	生徒一人一人に応じたきめ細かな指導や体験活動等の充実を通して、確かな学力や豊かな人間性などの「生きる力」を育み、新しい時代を拓くことのできる知・徳・体の調和のとれた人間を育てることが求められている。 そのためには、各学校が創意・工夫を生かした特色ある教育課程の編成・実施・評価を確実にを行い、充実した教育活動を展開していくことが重要である。具体的には、基礎・基本の定着や学ぶ意欲、自ら考え主体的に判断する力等の確かな学力の向上、指導と評価の一体化を目指した適正な評価の在り方について研究を深める必要がある。	知・徳・体の調和のとれた特色ある教育課程の編成・実施・評価	柚木義哉 (土橋中)	松尾明 (日吉学園)	波戸三幸 (吹上中)	岩脇勝広 (甲南中)	県教育庁 義務教育課 義務教育係 主任指導主事兼係長 假屋一成	サンロイヤル ホテル (マーガレット) 37名
				廣瀬孝一 (手々小中)	大田耕造 (東天城中)	園田泰治 (井之川中)	岡田芳文 (東市来中)		
第二分科会	教職員の意識改革と資質能力の向上	学校は、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力等の育成に加え、いじめ・不登校など生徒指導上の諸問題への対応、特別支援教育の充実など複雑かつ多様な課題に対応するなど、教師力の向上が求められている。 そのためには、マネジメント力を有する校長の強力なリーダーシップのもと、専門職としての高度な知識・技能を身に付ける意図的・計画的な校内研修をはじめ学校内外の研修を通して教職員の資質能力の向上を図っていく必要がある。また、教職員一人一人の職務遂行上の意欲、能力、実績等の評価を通して、学校組織を活性化させる人事評価制度の効果的な運用とその研究、並びに評価者としての資質能力の向上について研究を深める必要がある。	(1) 教師力の向上を目指した研修の充実 (2) 自己成長を促す人事評価制度の効果的な運用	中村幸一郎 (松山中)	徳重正宏 (志布志中)	勝田隆志 (有明中)	森拓郎 (南中)	県教育庁 教職員課 小中学校人事管理係 主幹 栗山義人	サンロイヤル ホテル (嵐山) 35名
				飯山哲志 (颯娃中)	萩原聖司 (川辺中)	坂元誠司 (知覧中)	福永洋治 (伊崎田中)		
第三分科会	道徳教育・人権教育 豊かな心を育み、人間尊重の精神と実践力を育てる道徳教育と人権教育	思いやりの心の欠如や倫理観・規範意識の低下など、生徒の心の問題は依然として憂慮すべき状況にあり、道徳的实践力を高める道徳教育の充実や同和教育をはじめとする人権教育の充実が求められている。 そのためには、学校は道徳の時間の充実とともに、豊かな自然体験や社会体験等の活動を取り入れ、すべての教育活動を通して道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深めさせる必要がある。また、人間尊重の精神を基盤に据えた指導に努め、生徒一人一人の人権意識を高めるとともに、偏見や差別をなくしていこうとする意欲と実践力を育てる教育の充実について研究を深める必要がある。	(1) 道徳的实践力を育てる道徳教育の推進 (2) 自他を大切にすることや実践力を育てる人権教育の推進	井久保康彦 (鶴川内中)	徳重忠彦 (三笠中)	福島慎一 (阿久根中)	大田恭一郎 (福平中)	県教育庁 人権同和教育課 主任指導主事 福雅彰	サンロイヤル ホテル (松・竹) 37名
				慶田弦 (菱刈中)	南郷美幸 (栗野中)	竹ノ山誠忠 (大口中央中)	福島慎一 (阿久根中)		
第四分科会	キャリア教育・生徒指導 生き方の自覚を高めるキャリア教育と生徒指導	生徒一人一人の勤労観・職業観を育て、社会的・職業的自立を目指す教育を推進するためには、生徒の発達段階や系統性を踏まえ、多様な実践的・体験的な活動を計画的、組織的、継続的に進めることが大切である。また、心身の発達に配慮した望ましい集団活動を通して、自律的・実践的な態度を育てることが大切である。 そのためには、進路指導において生徒の自己実現に向けた意欲付けと、全教育活動を通してキャリア教育の充実を図る必要がある。また、社会の一員としての自覚を高め、将来にわたって生徒自らが自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指した積極的な生徒指導について研究を深める必要がある。	(1) 目標をもち、自己実現を図るキャリア教育の系統的推進 (2) 豊かな人間性や社会性を育む生徒指導の充実	亀山浩一 (伊敷台中)	吉岡一徳 (城西中)	山下信久 (西陵中)	山下信久 (西陵中)	県教育庁 義務教育課 義務教育係 主任指導主事 前山隆史	サンロイヤル ホテル (梅・杉) 37名
				平國弘明 (錦江中)	土岐邦寿 (田代中)	小田敬介 (第一佐多中)	前田浩二 (武中)		
第五分科会	開かれた学校づくり 家庭や地域の信頼に応える「開かれた学校」づくり	学校は、その目的を達成し、地域住民の信頼に応えるために、家庭や地域社会と連携し積極的に教育活動を展開しながら、地域に開かれた学校づくりに努めることが重要である。 そのためには、学校の教育活動や学校の運営実施状況について、自己評価したり学校関係者評価（外部評価）等を行ったりして、その結果を保護者や地域に説明するとともに、学校経営の改善に生かす必要がある。また、外部の人材を活用したり、学校の施設や学習の機会を提供したりするなど、地域社会との連携の在り方について研究を深める必要がある。	(1) 地域社会と連携した信頼される学校づくりの推進 (2) 教育課程の自己点検・自己評価等と学校関係者評価（外部評価）の充実	神田良文 (万世中)	本山和仁 (坊津学園)	内村健二 (金峰学園)	内真奈美 (緑丘中)	県教育庁 教職員課 小中学校人事管理係 主幹 毛利真吾	ホテル ウェルビューかごしま (さざなみ) 37名
				松本眞一 (川内南中)	末留健太郎 (祁答院中)	石畑浩一 (入来中)	吉鶴正樹 (大笠中)		